



残り1ヶ月で夏季休業に突入します。学校では、宿泊学習や修学旅行が終わり、じっくりと学習に向かえる時期となりました。研究推進に関しては、研究の検証の場の一つとして、ミニ授業研究会が随時行われています。また、県内外の学校からは授業研究会の案内が続々と届き始めました。

そこで、今回は県南、そして、県内の特別支援学校が連携し、**お互いに高め合う**ことを目的とした取組を紹介します。

平成28年度 県南特別支援教育課程等協議会

昨年度から本校を会場に年3回実施しており、県南4校の教育専門監、教務主任、研究主任で組織している協議会です。本協議会の目的としては、横手支援学校の教育課程や研究推進に対する助言や意見、情報提供を頂くというものです。今年も6/21に第1回を行いました。

協議会では、今年度の教育課程の柱の一つ「言語活動の充実」について各校から情報提供を頂きました。

横手支援学校では、これまで実施してきた読書週間の価値を再認識し、本に親しむ児童生徒を育てるために、本に関連した学習の設定や図書環境の整備、教室内の掲示物の精選等を行っている。

稲川支援学校：キャリア教育全体計画の内容の一つ「伝わる表現」を基に、「自分の言葉で伝える」ことを大切に授業づくりを行っている。教師は、児童生徒の姿を引き出すために、質問の仕方を工夫したり、例を示したりと手立てを講じている。

大曲支援学校：大型絵本を使った文字に触れる機会やスクールバスの待ち時間を利用して様々な人と触れ合う機会を設定している。また、キャリア教育全体計画を見直し、挨拶、着替え、話す、聞くなどコミュニケーションの基礎と捉え、月目標に据えて取り組んでいる。

せんぼく校：開校したばかりで読書できる環境は少ないが、学習の中では話し合う場を大切にしている。また、振り返りの時間も丁寧に設定し言語化を図っている。おもてなしに向けて、聞かれたことを理解して答えるためには、どんな準備（学習）を行っておくべきか考えながら取り組んでいる。

★教育活動のどの部分に言語活動の要素が含まれるか考えて取り組むことが大切。他校の取組を参考に、本校の言語活動の充実を図っていきましょう！

☆横手のスタンダードの付録「言語活動の整備と言語環境の充実」って何？もご参照ください！



秋田県特別支援学校教育研究会（通称：県特研）

本校HPにも記載していますが、県特研は、県内特別支援学校の教職員全員が会員で、特別支援学校の教育課題について研究協議を行い、特別支援教育の充実発展に寄与することを目的とした会です。

今年度から県内の特別支援学校の授業研究会等は全て県特研との連携の基で開催されます。これまでと大きく異なることはありませんが、他校の授業研究会への参加の際には、他校の特別支援教育充実の手伝いと、その成果を本校に持ち帰り共有したり、生かしたりすることを意識してほしいと思います。これは、本校の授業研究会や公開研究会でも同様のことが言え、他校から参加して下さる先生方は、本校の特別支援教育充実のために来てくださるということ意識していただければと思います。

□県内の素晴らしい取組や授業を見たり、他校の先生方と意見交換したりして、お互いに高め合い本校の教育活動に生かしていきましょう！



県特研の一員！

